

8.8 木原線存続対話集会開催さる

日刊 勤労千葉

81.8.12 No. 819

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)033(2)七二〇七

地域住民と共に、木原線廃止反対を叫ぶ！

関東圏で唯一廃止が予定されている木原線の中心地大多喜公民館において、八月八日三百名余の結集をもって「木原線存続対話集会」が開催された。これは、総評・全交運が提唱する地方線廃止反対全国キャンペーン行動の一環として、七月二十八日北海道を皮切りに廃止予定線区の全域をまわってきた、東日本キャラバン隊の到着を受け入れて、千葉県実行委員会が主催して行われたもので、勤労千葉全支部から二十名の組合員が参加した。

地域ぐるみの反対運動を

集会は、吉田夷隅地区労務局次長の司会にはじまり、国鉄民主化共闘会議・東事務局長を座長に選出し、井原千葉県実行委員長(県労連議長)、宍倉木原線対策協議会長(大多喜町長)、米久八重子氏らの来賓あいさつを受け、東日本キャラバン隊のメンバー紹介のあとパネルディスカッションに入っていた。

最初に、野呂東日本キャラバン隊長(青森県交運)、石井夷隅地区労議長、堺国労千葉地本委員長による問題提起のあと、宍倉大多喜町長、司会の東氏の間でパネルディスカッションを行い、その後参加者全員との討論を行った。

この中で宍倉町長からは町民と密着した木原線五十年の歴史が語られ、沿線住民の足を奪う木原線の廃止が何よりも通学する子供達や婦人、お年寄りを直撃すること、ダイヤ改正毎に外房線との接続が悪くなる等の問題提起がされ、町をあげての存続のための乗車運動の実態が報告された。

石井夷隅地区労議長は前回の木原線を守る会を中心とした廃止反対運動の経緯を紹介すると共に三度目の廃止攻撃を断固阻止する決意と全県的な運動に拡大していくための協力要請があった。

参加した大多喜高校教師からは、学校全体が強い関心をもち生徒が独自に木原線廃止反対のサークルを作り、長生高校生のサークルと連絡をとりあって調査活動を行いながら会報を創り広く住民に呼びかけている運動の実態が生々しく報告され、参加者に強い感銘を与えた。

集会は最後に、県知事が運輸大臣に意見書を提出する八月十日から九月にかけてを当面の山場として、知事が絶対反対を貫くよう働きかけることを確認して散開した。

全力あげて木原線廃止反対へ

今日、木原線廃止反対の闘いは、新たな局面を迎えている。

「国鉄再建法」に基づくこの木原線廃止問題は、一九八二年度までの第一次廃止四線区のひとつとして運輸大臣が六月十日申請を出し、関係知事が「意見書」を提出することを延期していたが、運輸大臣は九月に廃止の具体化を図る「協議会」を発足させようとしている。

この間勤労千葉は、木原線担当の勝浦支部を先頭に地区労及び沿線住民との交流をつよめ、木原線廃止反対を闘う主体として取り組みを強化してきた。スローガン闘争・沿線への立看板等々は、沿線住民の注目をあつめ廃止反対闘争の高揚をつくり出している。

さらに国鉄三五万人体制攻撃粉碎・ローカル線廃止反対闘争を強化すべく、地域住民との連帯を強化しよう。

該当勝浦支部を先頭に、叩いぬかれた、80年11月25日、地方線廃止反対、反合メライチ

